

# 平成30年度 那須塩原市議会「志絆の会」 行政視察報告書



視察地 : 島根県益田市  
視察日 : 平成30年8月6日(月)  
視察内容 : 健康増進事業の推進と地域医療を守る取組について

視察地 : 島根県津和野町  
視察日 : 平成30年8月7日(火)  
視察内容 : 日本遺産の取組について

視察地 : 山口県萩市  
視察日 : 平成30年8月8日(水)  
視察内容 : 松陰先生のことば朗唱などの歴史を活かした教育について

【参加者 : 眞壁 俊郎 鈴木 伸彦 金子 哲也】

○視察日 平成30年8月6日(月)

○視察地 島根県益田市

○テーマ1.「健康増進事業の推進について」

○テーマ2.「地域医療を守る取組について」

○報告者 鈴木 伸彦

テーマ 1.「健康増進事業の推進について」

健康ますだ市21の取り組み

島根県益田市の概況

合 併	平成16年11月 1日	(益田市・美都市・匹見町の合併)
面 積	733.24 km <sup>2</sup>	(島根県の面積の一割強を占めている)
人 口	47,182 人	65 以上人口 17,366 人
		高齢化率 36.81 %

(平成30年4月末現在)

(1) 健康ますだ市21推進協議会設立の経過

- 1) 平成13年6月 健康ますだ21推進協議会設立
- 2) 平成16年8月 健康みと21推進協議会設立
- 3) 平成16年10月 健康ひきみ21推進協議会設立
- 4) 合併(平成16年11月) 統合に向けた調整を始める
- 5) 平成23年8月 健康ますだ市21推進協議会設立

(2) 計画の内容

1) 基本理念 (スローガン)

いきいき・すこやか・支えあい

～子どもから高齢者までともに元気で暮らすために～

2) 成果目標

- ① 生き抜く力の土台をつくろう ⇒ 子どものころから健康的な生活習慣を身につけ生活習慣病予防に取り組む
- ② 現役で頑張ろう ⇒ 介護予防に取り組む
- ③ 笑いのある人生をおくろう ⇒ 心の健康づくりに取り組む

3) 行動目標 (取組んでいこう!)

- ① 健康的な生活習慣を身につけよう
- ② 健康のありがたさを感じよう
- ③ 生きがいをもち笑顔で過ごそう
- ④ 地域と行政が連携して健康づくりをすすめよう

(3) 推進体制

計画の推進は、市民一人ひとりが生涯にわたり、主体的に健康づくり取り組めるよう、地区健康づくり会・関係機関・団体と行政で構成する「健康ますだ21推進協議会」が中心となり計画を推進する。

1) 健康ますだ21推進協議会は以下の3団体からなり、4部会に分かれる

- ① 行政(事務局、福祉環境部・美都総合支所 健康増進課・匹見総合支所 子ども家庭総合支援課)
- ② 20地区健康づくりの会(・20地区健康づくりの会・地区振興センター代表)
- ③ 関係機関・団体(・島根県食品衛生協会増田支所・増田地区栄養士会・医師会・スイミング・社会福祉・スポーツ推進委員会・幼稚園・PTA・教育委員会・自治会 e t c 28団体)
- ④ 全体が「食生活部会」、「運動部会」、「歯科部会」、「心の健康部会」に分かれ活動し、益田市全体で健康づくりが進められる環境を整える。

2) 地区健康づくり協議会

地区健康づくり協議会は20地区健康づくりの会で組織される。健康づくりの会は、自治会や各種団体などで組織され、市内各地区で中心となり、地域特性を踏まえた身近な場での健康づくり活動を進める。

- 3) その他、市の関係課連絡会、既存の専門会議、子供関係、壮年関係、高齢者関係、推進協力企業・団体等の連携を図っている。

(4) 活動の振り返り

20地区健康づくりの会は、10年間で4つの専門部会をローテーション（3年・2年・2年・3年）しながら活動。その都度地区活動・部会活動について振り返り、評価をして次の活動につなげている。（PDCAサイクル）

(5) 活動

1) 協議会活動

・年度報告会⇒総会⇒夏、推進研究会⇒秋、ますだ市フェスティバル⇒冬、健康づくり連絡会⇒3月、活動報告会

・他市の健康づくり協議会との交流

2) 部会活動

食生活部会 ; 愛し愛され弁当甲子園 コンテスト、早寝早起き朝ご飯

運動部会 ; いきいきウォーキング大会、週3回30分以上歩く人のカード、益田市版元気体操作成・普及啓発

歯科部会 ; 7020、8020 良い歯の表彰、健康はフェスティバル

心の健康部会 ; ストレス解消川柳表彰式、アロマ石鹸づくり、ヨガ

(6) 振り返り評価

1) 中間アンケートの実施

平成21年度に実施したものと同様に27年度も実施。対象者6,121人、回収率70.3%

2) アンケートのまとめ

①前回と（5年前）比較し、悪化した項目は無し⇒健康づくり活動の浸透・底上げ

②次世代への普及啓発。現役世代が足りない。

③目標達成にむけ継続した取り組みが必要

3) 部会、団体、地区活動毎に振り返りチェックの実施

評価シートによるチェック

(7) 地区活動より分かったこと

・組織体制が整っている

・多くの地区は、役員会を開催し、活動計画を共有している。また各地区推進委員の学ぶ場が有り役割を伝えている。

・社会資源の活用や事務局と相談しながら活動を進めている。

・健康教室など活動に参加しない住民、できない住民へも教室の様子を伝えるなど気軽に声かけを行なうようになった。

・会員自身が楽しみながら活動し、やりがいを感じている。

・医療、福祉、介護の連携などについても関心が高くなり、困った時に相談できる人が増え、地域内の結束力も高まった。

・役員会の定期的な開催が定着していない地域が有り、臨時協議し活動するという流れが出来ていない。

・地域単位で健康課題を伝えることや、課題の共有が出来ていない。

・地区内で声を掛け合いながら健康づくりに参加し、参加しない人へも情報提供を心掛け幅広い活動をしたが、まだまだ不十分。

(8) 益田市健康増進課の現状

1) 益田市保健事業(健康増進計画より抜粋) H22年からH27年(中間評価)

・平均寿命 ; 男性 1.0.8歳、女性 0.41歳ともに伸びた。

・65歳平均自立期間 ; 男性0.54歳伸びた、女性0.03歳縮んだ。

・特定健康診査受診率 ; 33.2%から41.05%に伸びた。

- ・健診受診率 ; 乳児検診、1.6歳児検診、3歳児検診、全て上がった。
  - ・虫歯の罹患率の減少 ; 1.6歳児、3歳児共に減少。
- 2) 益田市国民健康保険 被保険者数と医療費総額
- ・医療費総額は平成26年度ピークに緩やかに減少。
  - ※) ただし、被保険者数も同様に減少。
- 3) 生活習慣病にかかる医療費
- ・H25年からH28年度の4年間で毎年健診受診者減少。健診未受診者はH26年度ピークに減少。
- (9) 今後方針について
- ・第3期活動の振り返りを活かした取り組みをしていく。
  - ・協議会自身、健康づくりの会推進委員自身が楽しいと思えるような活動を一緒にしていく。

#### (10) 視察感想

3市町が合併して12年。面積は那須塩原市より広いが、人口は47,182人と少ない。高齢化率は高く人口減少は那須塩原市より進み方が早いようである。日本の将来を先取りしているような地域であると感じた。少子高齢化は市の財政難。結果、福祉サービスの劣化に繋がる。そのような状況の中、市全体で健康について真剣に取り組んでいるなど感じた。那須塩原市では包括ケアシステムを構築し健康福祉に取り組んでいる最中であるが、益田市は那須塩原市の包括ケアシステムとは異なる部分が多いが、取り組みが早く組織が細かくできているようである。アンケートを取り分かった地区活動の状況や、今後の方針等、PDCAとその取り組み方は、議員活動の中で今後生かしていきたいと思う。

#### テーマ 2. 「地域医療を守る取組について」

平成20年頃、全国規模で地域医療の崩壊が進行し始めた。事態を招いた原因としては医療費抑制による医師削減、診療報酬引き下げ改定などが挙げられた。「地域格差」「地域医療問題」に頭を悩ます自治体は、あまたに上ることと思われた。そういった状況の下、問題解決の糸口を探る為、益田市議会はこの課題に取り組み、結果として、条例を作成、地域医療対策室を設置し、数々の地域医療への取り組みを行っている。

##### (1) 地域医療対策室設置までの経過

- 1) H14年には102人いた医師がH20年には68人に減った。これは全国でワースト1位の数である。H21年に対策室を設置するも低迷は続いた。
- H23年より徐々に増え、H27年には75名まで増えている。

##### (2) 条例の設置

- 1) H20.4.8 益田市議会は医療問題検討委員会を立ち上げる。
- 2) H20.6.20 地域医療対策特別委員会を設置
- 3) H20.11.29 地域医療討論会開催
- ・
- ・
- ・H23.6.13 6月定例議会にて「益田市地域医療推進条例」を制定

##### (3) 益田市地域医療対策室の取り組み状況

「支える」、「招く」、「学ぶ」、「連携」、「育む」、「要望」をテーマにそれぞれの取り組みを行っている。

- 1) 「支える」
  - ・休日応急診療事業
  - ・増田健康ダイヤル24
  - ・周産期医療3事業
  - ・地域医療3事業
- 2) 「招く」
  - ・医師を益田市へ 5事業
- 3) 「学ぶ」

・シンポジウム、セミナー参加、島根大学医学部小児科教授との意見交換、フォーラム、後援会への参加。市民への呼びかけ。

4) 「連携」

- ・益田市の医療を守る会との連携
- ・増田赤十字病院との活動連携
- ・地域医療を守る街頭活動の実施
- ・自治体等の視察受け入れ

5) 「育む」

- ・医学生・看護学生の支援
- ・奨学金寄付制度
- ・石見高等看護学院地域推薦入学への推薦
- ・医学生・看護学生との意見交換会
- ・小中学生医療現場体験
- ・看護学生とのふれあい体験
- ・先輩から後輩へ伝え、学び
- ・益田市医療推進13事業

6) 「要望」

- ・県知事、県保健福祉部長、大学・医療機関への要望
- ・増田地区広域市町村圏事務組合による医療体制確保の要望

(4) 視察感想

増田市市議会は条例を制定し自ら地域医療をさえる活動を行っている。背景には医師不足という切実な問題が目の前にあったからだ。那須塩原市も調べると医師の数は全国平均を下回っている。益田市程に切実ではないにしろ、こういった問題があることを知る良い機会になった。益田市市議会活動そのものが那須塩原市に合うかは別として、医師・看護婦不足を課題として住民サービスの劣化を引き起こさないよう我が市を注視していきたい。



○視察日	平成30年8月7日(火)
○視察地	島根県津和野町
○テーマ	日本遺産の取組について
○報告者	眞壁 俊郎

津和野町は「津和野今昔～百景図を歩く」というストーリーで日本遺産に認定されました。およそ150年前、幕末の津和野藩の様子をイキイキと描いた「津和野百景図」は、当時の景色や習俗を伝える興味深い資料です。百景図をめくっていくと、津和野に「今も残っている風景」がたくさん描かれていることに気づきます。「鷺舞」「流鏝馬」「津和野城跡」「藩校養老館」といった無形、有形の文化財をはじめ、桜や紅葉の名所など風光明媚の地、鮎や猪、松茸、山菜など食べられる百景図も描かれています。

これら百枚の絵図に描かれた題材の半分以上は、今日の津和野でも目にすること、体験することができるもの。津和野を訪れると百景図の時代と今が、繋がっていることがわかります。

#### ○津和野町日本遺産センター

##### 1. 立地と施設の特性

日本遺産認定市町初の日本遺産の情報発信施設で、重要伝統的建造物群保存区域内の空き家（元私設の美術館）を活用し、総務省事業・集落支援員（コンシェルジュ）制度活用など話題豊富な施設でありオープン3年で5万人の入場者があります。

##### 2. 運営体制と人材の活用

日本遺産を推進する上で、誰がプロデューサー役になるか。ストーリーを活かすための取組は文化財、観光のまちづくりなど様々な視点も必要であり、行政だけでも民間だけでも無理なため、館長に商工観光課長（兼務）、次長に商工観光課職員（兼務）、マネージャー（民間）、コンシェルジュ（集落支援員）2名、職員2～4名体制で運営している。

##### 3. 財源と各種制度の活用

日本遺産の認定により、日本遺産魅力発信推進事業（10/10補助）が利用できるが、それだけでは成果が見えてこない。3年目以降の継続を視野に入れた財源確保や最終的には民間で運営できる仕組みづくりが必要である。

##### 4. ストーリーを通じた情報発信

予算を伴うテレビ番組やCM、雑誌など一過性のPRはある意味有効だが、既存のイベント、観光素材を活かしながら周辺エリアへの定期的な情報発信により、リピーター客の増を着実に図る取組が必要である。

##### 5. 人材育成・普及啓発

日本遺産を地域の誇りにするためには、ストーリーとそれがもつ素材を広く使えるもの

に仕上げていく取組が必要。地域や学校で使ってもらえるようになってはじめて日本遺産が認められたことになる。

## 6. 文化財の保護と活用

日本遺産は、文化財を観光や地域づくりに活かすため取組を支援する制度。文化財の保護・活用が疎かになっては本末転倒。地域住民の合意形成を取るために日本遺産を有効に活用する。



(津和野町日本遺産センター)

### ○所感

津和野は、山陰の小京都と呼ばれている。城下町として7百年を超える歴史を誇る伝統文化や祭りが今も引き継がれている。百景図に描かれた町を歩くと、実に狭いが津和野全体が日本遺産となっているため観光振興には魅力的な場所と感じた。日本遺産の目的は、歴史的な遺産を守り活用してまちを活性化することが目的である。話を聞くと津和野は、過疎化や人口減少が激しく厳しい状況がうかがえた。世界遺産認定後の観光客入込数・宿泊数も横ばいの状況であり、今のところ日本遺産が観光に繋がっていない話を伺った。那須塩原市も日本遺産が認定されこれから地域の活性化に取組まなければならない。まずは、日本遺産サミット参加や日本遺産地区連携により日本遺産の知名度向上が必要である。



(稲荷神社)



(鷲原八幡宮)

○視察日 平成30年8月8日(水)  
○視察地 山口県萩市  
○テーマ 松陰先生のことば朗唱などの歴史  
を活かした教育について  
○報告者 金子 哲也

萩市の歴史、文化、産業を活かした取組について説明を聞きました。また、その中で幕末から維新にかけて多くの優秀な人材を生み出した長州藩とその人材育成の背景にある長州藩の教育制度の特徴を、萩藩校明倫館を中心に全国的な観点をふまえて説明を受けました。

学校教育の基本方針として

- 志教育一志の育成一志は夢とは異なる
- 立志式による子どもたちの心がまえ
- 松下村塾一農下村塾一朗唱による実践教育
- キャリア教育一田植え稲刈りなど様々の農業体験

さらに萩教育委員会では郷土の先覚者、吉田松陰をお手本にした「松陰読本」を発行(昭和55年)し、市内全校において授業の中で用いています。これを記念して山口県教育委員会では、県内全般に、さらに全国に広めたいと念願し計画しています。松陰先生は山口県の大きな誇りであり、偉大な先輩であると同時に全国の皆さんの手本にすべき人であると力説していました。

松陰先生を今の時代によみがえらせ、先生に学ぶ良い資料として全国の小学生をはじめ世のお父さんお母さん方にも広く活用されることを心から祈念して、この「松陰読本」を刊行しているとのことでした。また、明倫小学校に於いては、新しい先生や若手の先生に対して、明倫についてのプレゼンを行い、自らの行動を律することを求めるようにしているとのことでした。



(明倫小学校)

次に近くにある歴史ある明倫小学校に案内して頂き、校長先生自らの案内により、くまなく校舎内を見せて頂きました。そして、学校長の教育方針と、学校に於ける取組みや施策の展開の実状を詳しく説明して頂きました。

○基本方針 自然、歴史、文化を生かした心豊かなひとづくり（萩らしい教育方針）

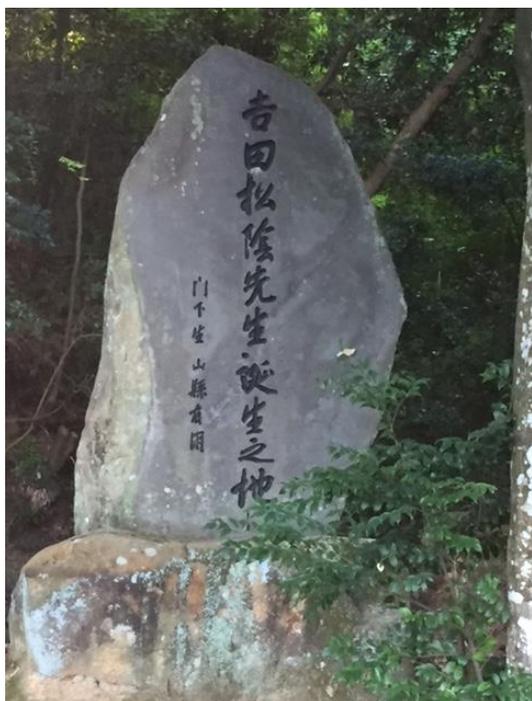
○中心目標 ふるさと萩を誇りとし、志を抱き生きる力を持った子どもの育成

○特色ある教育方針 各学校による拠点校構想。13の小学校がそれぞれ、私たちの学校は「○○○」の拠点校です。

○朗唱教育 小学1年から6年まで、各学期ごとに1文ずつ、6年間では18の松陰先生のことばを（感想、意見、詩歌等）大きな口を開けて正しい身なりで正しい姿勢で毎朝朗唱します。

- ・例1 小学1年生 今日よりぞ幼心を打ち捨てて人と成りしに道を踏めかし
- ・例2 小学2年生 万卷の書を読むにあらずるよりはいづくんぞ 千秋の人たるをえん（多くの本を読み勉強しなければどうして立派な人間になることが出来ようか、しっかり勉強しなさい。）

吉田松陰・明倫学舎・松下村塾、その他たくさんの偉人や歴史ある遺産を目の前にして、真正面から向き合う子どものための教育実践に多くの学ぶことがあり、多くの収穫のある視察研修となりました。



(松陰先生誕生の地)



(松下村塾)